

【重要】

学内における感染症対策について

医学部キャンパスにおいて、インフルエンザ、感染性胃腸炎が流行っています！皆さん注意して下さい！以下をよく読んで学内における感染症拡大防止に努めて下さい。

インフルエンザについて

皆さんご存じのインフルエンザ、原因となるインフルエンザウイルスは感染力が非常に強いことが特徴で、ほとんどの方が軽症で回復しますが重症化することもあるため、疑われる場合は必ず医療機関を受診しましょう。

インフルエンザの症状

- 38℃以上の発熱
- 頭痛
- 腰痛、関節痛、筋肉痛
- 全身のだるさ
- 寒気 など

インフルエンザの予防対策

- 手洗いを徹底しましょう！
石鹸を使用して、時間をかけて手首まで十分洗い、流水でしっかり流しましょう。
- 咳エチケットを守りましょう！
咳、くしゃみ、鼻水の症状がある時は、必ずマスクを着用しましょう
- 規則正しい生活をしましょう！
食事・睡眠をしっかりとり、規則正しい生活を心がけて、抵抗力をあげましょう
- 室内の換気を十分におこない、湿度を60%～70%に保つように心がけましょう
教室が寒いからといって閉め切っていると、空気が汚れていきます。休み時間などには、窓を開けて空気の入替えをしましょう。また、暖房のきいた部屋は特に空気が乾燥し、ウイルスの宝庫となってしまいます。マスクを着用し喉を乾燥させないようにするのも感染予防の1つの方法です。家では加湿器などを利用して湿度を保つようにしましょう。



インフルエンザに罹ったら

- 疑わしい症状があるときは、医療機関を受診しましょう
受診のタイミングについては、発熱後すぐに受診してもウイルス量が少ない為、陰性と判定されることがあります。一般的には、発熱後早くても**数時間から12時間過ぎてから**受診するとよいと言われています。抗インフルエンザ薬は、感染後48時間以内に使用しないと効果がでにくいとされ、投与は早ければ早いほど有効であると言われています。
- 安静にして、休養をとりましょう。特に睡眠を十分とることが大切です。
- 高熱がでるため、脱水を起こす可能性があります。こまめに水分補給をしましょう。
- 咳、くしゃみなどの症状がある時は、必ずマスクを着用しましょう。
- 無理をして学校や部活やバイトに出ないようにしましょう。
インフルエンザと診断された場合は、「出席停止」となります。医師から指示を受けた期間はしっかりと休養するようにして下さい（参考：インフルエンザ出席停止期間早見表参照）。
- 下記に報告をお願いします
以下に大学に届出が必要な感染症について掲載しています。これらの『感染症』と診断（疑いも含む）された場合には、**各担当係(下表参照)へ「電話」で報告**することが義務付けられています。これは、キャンパス内での集団感染や感染拡大を防止することを目的としています。感染が疑われる場合（発熱、発疹、リンパ節の腫れなど）には、保健管理センターに電話で相談をするか、早めに近くの医療機関を受診してください（受診時にはマスク着用のこと）。

【連絡先一覧】

連絡先	電話番号	連絡内容
医学部学務課教育・学生支援係	0836-22-2099	・医療機関での診断結果の報告 (報告してもらいたいこと) 疾患名、診断年月日、診断した医療機関名、症状経過、治療・処方、指導内容、接触者の有無 ・講義欠席等に関する連絡、お問い合わせ
保健管理センター医学部分室	0836-22-2380	・症状に関する相談、お問い合わせ

【大学への届出が必要な感染症】（学校保健安全法の規定に基づく）

疾患名	潜伏期間	出席停止期間の基準
インフルエンザ	1～4日	発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで
百日咳	5～21日	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
麻疹（はしか）	7～18日	解熱した後3日を経過するまで
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	12～25日	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
風疹（3日はしか）	14～23日	発疹が消失するまで
水痘（水ぼうそう）	10～21日	全ての発疹が痂皮化するまで
咽頭結膜熱（プール熱）	2～14日	主要症状が消失した後2日を経過するまで
結核		病状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認めるまで
髄膜炎菌性髄膜炎	1～10日	病状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認めるまで

★上記以外の感染症については、必要に応じて、保健管理センターへご相談下さい。

ノロウイルスについて

冬の到来とともに時に大規模な集団発生を引き起こすノロウイルスは、ヒトの小腸で増殖するウイルスです。ほとんどが経口感染で、感染している調理従事者や調理機器などを介して汚染した食品を食べた場合、汚染された二枚貝を生あるいは十分加熱調理しないで食べた場合です。感染力がとても強く、患者の糞便・吐物少量でも感染が成立し、飛沫感染することもあります。

ノロウイルスの症状

●吐き気 ●下痢 ●腹痛 ●発熱は軽度

※潜伏期は1～3日で、症状は通常1週間以内で回復しますが、症状回復後も1週間程度はウイルスの排出が続きます。

ノロウイルスの予防対策

●手洗いを徹底しましょう！（石鹸と流水）※アルコールは効きません！

（手洗いのタイミングとしては、トイレの後、食品を取り扱う直前、外出から戻った時、ゴミなど汚れたものを触った時など）

●感染した人の便やおう吐物には直接触れないようにしましょう
●調理をする場合は、十分に加熱（85℃、1分間以上）しましょう

ノロウイルスに罹ったら

●ノロウイルスは、大学に届け出が必要な疾患ではありませんので、受診医療機関の指示に従って下さい。
●病院実習をしている方は院内感染が拡大するリスクがありますので、疑わしい場合は必ず担当教員に相談して下さい。また、病院内のトイレなどは使用しないようにして下さい。

参考：インフルエンザ出席停止期間早見表



注）発症日（当日）とはインフルエンザ症状（38度程度の発熱など）が始まった日です

